

内水(浸水)対策について

(1) 古隅田川・上院調節池(埼玉県)の整備に対する連携・調整について

・埼玉県、さいたま市(河川・下水道)事業調整協議会において、現在の古隅田川流域における取り組みについて伺う。

・一級河川古隅田川事業の進捗状況について伺う。

埼玉県・さいたま市(河川・下水道)事業調整協議会は、埼玉県と本市が連携して、河川及び下水道の整備を効果的に実施できるように、事業間の調整を行うことを目的に設置された。

現在、この協議会では事業主体の埼玉県が行う、一級河川古隅田川の改修状況や、今後の事業計画を確認するとともに、本市が行う準用河川上院川の改修や、東徳力団地及び東岩槻駅周辺地区の浸水対策について、事業のスケジュール調整などを行っている。

次に、一級河川古隅田川の改修事業の進捗状況については、平成30年3月末現在、総延長4.8kmのうち約1.7kmの整備が完了し延長比で約35%の整備率となっている。

上院調節池については、計画貯留量20万立方メートルのうち、18万立方メートルが完成しすでに暫定供用されている。

平成30年度の古隅田川の改修については、東徳力団地の東に位置する「豊春橋」から上流側の用地買収を埼玉県が進めている。

(2) 河川と下水道の対策について

・東徳力団地と東岩槻駅周辺において浸水被害が発生していることから、河川及び下水道の浸水対策の取り組み内容について伺う。

東徳力団地は、周辺の農地の盛土や宅地化により、従来、田畑が保有していた保水機能が失われたことで、家屋などの浸水被害が発生するようになり、昨年10月の台風21号においても浸水被害が発生している。

東徳力団地の浸水対策については、平成28年8月に地元自治会から調整池とポンプ場の整備などの要望が出されたことを受け、平成29年度に既存施設の排水状況や、浸水被害の要因を分析するとともに、対応策を検討した。

その結果、当該団地の地盤高が、洪水時の古隅田川の水位より低く、自然排水が困難であること、また既存の開発調整池の容量が小さいことが浸水被害の要因となっていることから、新たに調節池やポンプなどを設置する計画を策定した。

平成30年度については、調節池の設置に向けた周辺地盤の高さの測量や既存の排水施設の詳細な埋設状況の調査を行うと共に新たに設置する調節池の容量や、ポンプの規模などの具体的な検討を行っている。

東岩槻駅周辺における浸水対策の取り組みについては、この地区に降った雨は雨水幹線を經由して、一級河川古隅田川に流れているが、古隅田川が未改修のため、放流量が制限されていることから、浸水被害が発生しているという状況である。

このため、浸水対策の取り組みとして東岩槻駅の北側では、雨水幹線の**上流側に位置する「諏訪公園」の地下を活用した雨水調整池を計画し、平成31年度の工事着手に向けて、現在設計を進めている。**

また、東岩槻駅の南側には、古隅田川の最上流部付近に位置する「ふれあいプラザいわつき」の敷地内に雨水調節池がある。

この地域の雨水は、南側の雨水幹線から全量をいったん調節池に流入させ、排水ポンプにより古隅田川に放流しており、平成28年度に古隅田川の現況の許容放流量に合わせて、排水配水ポンプを増強した。

平成30年度には、浸水区域の雨水を効率的に雨水幹線へ流すことができるように、雨水管の設計も進めて行く。

本市では、このような河川や下水道で対策を取っているが、徳力団地のある慈恩寺地区や、東岩槻周辺の浸水被害の軽減を図るためには、**一級河川古隅田川の改修が必要**と考えている。

このことから、埼玉県・さいたま市(河川・下水道)事業調整協議会や、埼玉県の予算に対する要望など、様々な機会を通じて、古隅田川の整備がさらに促進するよう、県に対して強く働きかけて行く。

岩槻区が長年悩まされている水害の解決はいつ?



指定緊急避難場所・指定避難所一覧

さいたま市は、次のような避難場所・応急給水場所を整備しています。お住まいの近くの避難場所・応急給水場所や避難経路を確認しておきましょう。

※その他、要配慮者避難所、福祉避難所なども整備しております。



- ① 岩槻小学校
- ② 太田小学校
- ③ 川通小学校
- ④ 柏崎小学校
- ⑤ 和土小学校
- ⑥ 新和小学校
- ⑦ 慈恩寺小学校
- ⑧ 河合小学校
- ⑨ 東岩槻小学校
- ⑩ 城北小学校
- ⑪ 徳力小学校
- ⑫ 上里小学校
- ⑬ 西原小学校
- ⑭ 城南小学校
- ⑮ 岩槻中学校
- ⑯ 川通中学校
- ⑰ 城南中学校
- ⑱ 慈恩寺中学校
- ⑲ 城北中学校
- ⑳ 桜山中学校
- ㉑ 柏陽中学校
- ㉒ 西原中学校
- ㉓ 県立岩槻商業高等学校
- ㉔ 県立岩槻高等学校
- ㉕ 県立岩槻北陵高等学校
- ㉖ 岩槻文化公園体育館
- ㉗ コミュニティセンター岩槻
- ㉘ 老人福祉センター槻寿園
- ㉙ 市民会館岩槻
- ㉚ ふれあいプラザいわつき
- ㉛ 岩槻本丸公民館
- ㉜ 岩槻南部公民館
- ㉝ 岩槻北部公民館
- ㉞ 岩槻本町公民館
- ㉟ 岩槻城趾公民館
- ㊱ 岩槻城趾公園
- ㊲ 岩槻文化公園
- ㊳ 岩槻諏訪公園
- ㊴ 北部工業団地記念公園
- ㊵ 和土住宅公園
- ㊶ 南平野公園
- ㊷ 慈恩寺親水公園
- ㊸ 川通公園
- ㊹ 開知学園

水色の部分は過去浸水被害に遭った場所を示しています

総合政策委員会議案外質問

129万人都市の防災について

(1) 守り、備え、行動について

・人口129万人を越える都市となったさいたま市の災害時の対応、またこれに備えた市の取り組みを伺う。

さいたま市では本年3月に国土強靱化地域計画の策定及び地域防災計画の改定を行い、自助・共助・公助それぞれの取り組みとその連携により、災害に対する事前の備えに努めることとしている。

公助・・・避難者のための食糧備蓄や支援物資を受け入れる広域拠点備蓄倉庫の整備、災害協定の締結、防災行政無線やヤフー防災アプリ、防災行政無線メールなどの災害情報連絡体制整備。

共助・・・発災直後の救助、救援活動は地域住民の自主活動が最も効果を発揮することから、自主防災組織に対して資機材等の購入の補助や防災アドバイザー制度による災害図上訓練の支援などを行い強化を図る。

自助・・・自分たちでできる災害に対する備えを着実に行うことが必要であることから、出前講座の実施や防災ガイドブックを市内全戸に配布するなど、市民への啓発に努めている。

先般の大阪府北部を震源とする地震により、小学校のブロック塀が倒れて女児が死亡した悲惨な事故を機に、全国でブロック塀の安全点検が行われています。埼玉県の小・中学校の調査結果は次の通りとなっています。

市有施設及び市有地のブロック塀の設置状況調査

さいたま市全ての市有施設及び市有地のブロック塀の設置状況調査を実施しましたので、調査結果について報告します。

1 調査対象 3,307カ所(166カ所)
学校や市民利用施設等の市有施設に設置しているブロック塀だけでなく、公園等の建築物のない市有地に設置しているブロック塀も含めて調査を実施しました。※()内は市立学校数

2 調査方法 施設管理者及び市有地管理者が目視により点検

3 調査結果
全3,307カ所の市有施設及び市有地の調査結果については以下のとおりです。

- (1) ブロック塀設置市有施設・市有地 828カ所(122カ所)
- (2) 現行の建築基準法に適合しない疑いのあるブロック塀を設置している市有施設・市有地 179カ所(75カ所)
- (3) 著しい亀裂、破損、傾斜が見られるブロック塀を設置している市有施設・市有地 29カ所(14カ所)
※建築物のない「市有地」に設置しているブロック塀等は「建築基準法」の適用は受けませんが、上記カ所数に含めています。
※(2)(3)の重複については、(2)に計上しています。

4 今後の対応
本調査結果を踏まえ、現行の建築基準法に適合していない疑いのあるブロック塀等及び危害がおよぶ危険性の高い損傷のあるブロック塀等については、原則、撤去し必要に応じて、フェンス等の設置を行います。また、措置を講ずるまでの期間においては、貼り紙などで注意喚起を図ります。

	建築基準法に適合しない疑いのあるブロック塀を有する学校	劣化や損傷などが生じているブロック塀を有する学校
埼玉県	343	161
さいたま市	46	27
岩槻区	2	0